

□随想□

# 二十七年ぶりの アメリカ

古林喜楽  
え・津高和一

この頃の飛行機はあぶないので、出がけにうんとこさと保険に入って、万一のことがあっても、家族がこまらぬだけの対策に手は打っておいたが、あいにくアメリカには富士山がないので空中分解もなく、うるさいムスターファが、又ぞろ神戸にうろちよろするようになった。さて噂には聞いていたが、アメリカの大学や研究所の規模の大きいのと、設備のデラックスなものには、いささか顔まけた。インディアナ大学の講堂などは、国際会館も大阪のフェスティバル・ホールも、かぶとをぬぐ位の豪華版である。われわれが泊った大学内の宿舍は、帝国ホテルの別館ぐらいの設備であるし、キャンパスが百五十万坪で東大の十倍、立派なゴルフ場さえある。それより私がなに

よりも羨ましかったのは、プールが素敵であったことである。オープンのも室内のもあるが、ともに浄化装置つきなので、コース・ラインが鮮かに見える清冽な水をたたえ、私が一人ならすんで飛びこむところであった。室内プールに至っては、東京のオリンピック・プールにもまけない位の立派なものである。勿論冬には暖房が入るので、一年中泳げる。このプールに案内してもらった途端に、私はこれなる哉これなる哉と、大いにわが意を強くした。三百六十五日、雪が降ろうが台風下でも一年中泳げるプールの建設運動に狂奔している私にとっては、天にもほる思いであった。さすがにこんなプールをもっているなればこそ、インディアナ大学の学生が、オリンピックで

活躍することができたのである。こちらさんのようにコール・コーヒのような濁水を塩素で消毒し、夏だけ泳いで冬は休むのでは、到底水泳王国の夢ももう一度なんてことは、聞えませぬ話である。体力の問題ではない、施設の問題なのだ。

これらのことはほんの一例であるが、とにかくスケールの大きいのと、設備の立派なものには、いささか参った。

もっとも、あの静かで広大な緑の学園という印象をかってうけたハーバード大学が、今は自動車であらう、幾百のビルで芝生がへり、古色蒼然たる一部の建物の周辺に、わずかに昔のおもかげを残しているだけであったのには、いささか幻滅の悲哀を感じたが、そのかわり、ご自慢のサイクロトロンや電子計算機を見せつけられては、アメリカ人に負けない、否、それ以上の頭脳をもっている日本の若い学者たちが、貧弱な施設のために、あたら優秀な才能をのばしかねているのをおかえりみて、情ない思いがした。

ハーバード大学は私立であるが、基金をなんと四千億円もっている。これの相当部分が、卒業生やその父兄の寄附だというから、全く驚くほかはない。返済の要なき奨学金の数は千近くもあるというし、年賦償還の低利の貸金制度もあって、学生はどちらかを利用しているらしい。だから授業料が年七十二万円で、早稲田のような問題はおこらない。日本の私立大学の経営者たちは、少しは反省してみたら如何なものであろうか。基金を一体いくらもっていなさるのか。あちこちのアメリカの私立大学で聞きまわったところによる

と、大きな学舎のビルを建てるときには、先ずその資金を集める。銀行からそれを借りるときには、返済の確実な保証を提供することができるのでなければ、借りないのだという。ずさんな借りがたをして、あとでその金利の累積に手をあげ、果てはその尻ぬぐいを、授業料の値上げで学生にしわよせをするのでは、騒動のおこるのもあながち無理もないというものである。

カリフォルニア大学は、パークレーに本據があるが、学舎はサンフランシスコ(医)から、南はロサンジェルズ(経営)にかけて、九つのキャンパスにわかれている。サンフランシスコからロスというのであるから、北海道のノサップ岬から奄美大島というところ、たこの足どころのスケールでない。たこの足解消なんてミミッチイことを言いなさんと言いたるところであるが、しかしそれでいて総合性を保つ方途の講じられているところがみそなのである。

クレアモントという大学町では、六つのそれぞれ独立した大学が、共同で一つの大学院、一つの講堂共同のグラウンドをもち、それぞれが、共同の事務所本部をもっている。学生が授業料を取らぬ、成績表をもらい、先生がたが俸給をもらうのも、みなこの同じ本部へ行く。六つの大学の計算だから、でかい電子計算機でガチャガチャと片付けられる。事務員が少くてすむから、経費が節約できている。こんなことを書いていけば切りがないから、この辺で筆をおさめよう。

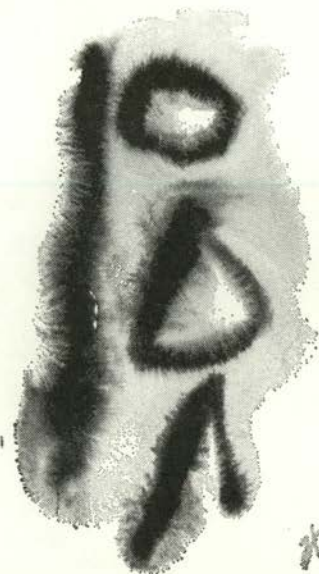
△神戸大学名誉教授▽

□ 随想 □

# トア・ロードの思い出

佐藤 愛子

え・津高和一



神戸というところはトア・ロードを思い出します。と  
いっても私の思い出すトア・ロードは、二十三年  
前のトア・ロードである。戦争がはじまり、緒戦  
の華々しい勝利が次第に傾きはじめて頃のトア・  
ロードである。物資はそろそろ欠亡しはじめ、贅

沢は敵だなどという標語が幅を利かせていた。だが  
トア・ロードの閑寂でエキゾチックな店々の構え  
には、どこことなくロマンチックな贅沢の名残りが  
あって、殺風景な時代に倦んだ私の心を潤してく  
れるようであった。

私はあの広い坂道と、そのつきあたりにあるト  
アホテルの赤い屋根の遠い全景を坂の下から眺  
めるのが好きだった。寒い日も曇った日も雨の日  
もあったと思うが、私の中にはトア・ロードとい

うと必ず初夏の光に溢れた坂道と、絵のように鮮  
かな青空の下のホテルの赤い屋根が浮かんでく  
る。それは美しいというよりは、失われてしまっ  
た平和への憧れを、私の中にかきたてるのであっ  
た。

私は東京に嫁いだ姉の依頼で、あの坂の途中に  
あった子供用品店へ、バラシニートの残り布で作  
ったというおしめかばいをよく買いに行った。鯉  
の皮で作ったというハンドバックを買ったことも  
あるし、ステンレス製の帯どめを買ったこともあ

る。二十才の私はいつもお腹を空かしており、父  
の古服で作ったスーツを着て、姉のお古の靴を穿  
いていた。たまにドイツの海軍士官などが、連れ  
立って歩いてくるのに出会うと、胸ときめかし

ながら顔をそむけた。ドイツの男性は、目と目が合うと、必ず自分に気があるとひとり合点をするから、視線が合わぬように注意して外らせていなければならぬ、と知り合いの老夫婦に教えられたからだ。しかし戦争で屈強の青年たちが出て行ってしまったあと、よれよれの国民服を着て眼鏡などをかけ、栄養失調気味の男ばかり見馴れた目には、ドイツの海軍士官は目がさめるばかりに美しく、雄々しく思われたのである。

その頃、私の女学校時代の友達の中には、ヒットラーに熱を上げていた人がいた。また天皇陛下に魅力を感じるといふ人もいた。「ええのん、ええのん、私は遠くから思ってるだけで倅せやのん——」

とヒットラーを好きな人はいった。私たちは偶然、トア・ロードで出合い、ユーハイムへ行けばケーキを食べさせてくれる、というので、わざわざ海岸通り(?)のユーハイムまで出かけて行った。もうその頃はコーヒー一杯にしろ、思うように飲めなくなっていた。ユーハイムにはドイツ人のおじいさんが一人だけいて、客は一人一人そのおじいさんの前へ行っては一皿のケーキを受け取って来て食べるのである。

私たちは何とかして、もう一皿ずつ食べさせてもらう手はないだろうかと相談し合った。私はおじいさんを見てにっこり笑い、

「ハイル・ヒットラー」

としてみたが駄目だった。おじいさんはうさぐささうに色あせた瞳で私たちを眺め、プイと横を向いてしまったのである。

戦争がいよいよ、暗い様相を帯びて来はじめた頃、私は雪に閉ざされた信州伊那町で、不自由な二階借りの生活をしていた。くる日もくる日も灰色の空から陰鬱な灰色の雪が舞い散って、私たちの上にはもう二度と明るい平和が訪れることはないかのように思われる日々だった。私は毎日、所在ないままに町の古本屋から買って来た小説を読んで、黄色い洋服を着た若い女主人公が、藤のケーンをふりながら、颯爽とトア・ロードを下りてくるとう描写に出くわしたときは、昔の恋人に会ったように胸が轟いた。警戒警報のサイレンと食糧不足と雪と寒さの中で、輝くばかりのよき時代のトア・ロードが、黄色い服を着た女性そのものであるかのように私の中に飛び込んで来て、一瞬、強烈な悲しみともなつかしさともつかぬ感動で胸がいっぱいになったことを思い出す。

五年ほど前、旧友が上京して来たので、トア・ロードのことを聞くと、

「ああ、あすこはもうあかん。さびれてしもてねこのごろはセンター街のさばって……」  
ということだった。

我々大正生れの戦中派には戦後に生れたものは何であれ(町であれ人間であれ)ケチをつけたくなる心理がある。どの町もどの家も昔ながらの個性あるたたずまいをなくして劃一的になって行っているのを見るにつけ、私はトア・ロードが現代風に繁栄しないで、昔の姿のまま、さびれて行っているというのを、むしろ嬉しいと思うのである。

△作家▽

□随想□

# 私の神戸

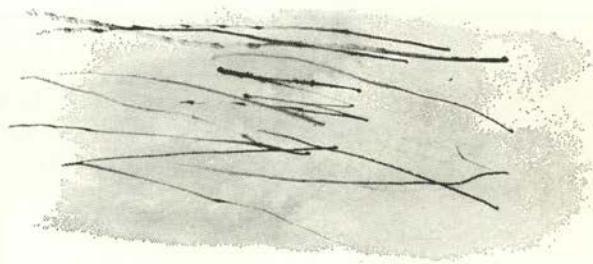
藤本義一  
え・津高和一

神戸での交遊録というのが、依頼された随筆の課題であるが、実のところ、神戸に於ける私の武勇伝、或いは酔虎伝といったものはあまりない。私と同姓同名の藤本義一氏という年輩の詩人の方が神戸に在住の由を聞いているし、またコピーライターで寿屋の宣伝部におられた藤本義一氏は私よりも、ずっとよく神戸そのものをご存知だと聞いている。

だから、私の神戸そのものの交遊録は、名前も憶えていない三宮界限のバーで飲んでいて、トイレに立って帰って来たなら、全然別のバーに座って、先刻の話のつづきをしていたりしたぐらいがオチである。或いは、同人誌のグループにまぎれ込んで、露地から露地を歩きまわったぐらいし

かの記憶しかない。一月に一度か二月に一度「N」とか「K」とかの遊びどころに顔を出すことがあってもそこで作曲家と落ちあったり、仕事の話などで終ってしまうのである。或いはまた、浮世風呂なる江戸時代の名称ある場所も知らぬことはなけれども、随筆の材料にはならないだろう。

神戸での思い出は「新聞会館」である。今を去ること、十八、九年前である。つまり、戦争の傷痕未だ消えずの頃、私は、あの「新聞会館」で、ボクシングをやったことがある。中学生の栄養失調の、それでなくとも瘠せていた私の階級は、ジュニア・フライのもうひとつ、ふたつ下のモスキート級であった。モスキートとは蚊である。蚊のクラスというと、もうどんな試合が展開するか予



M

想する御仁もあるだろう。試合は国際親善をかねたものであった。駐留軍の子弟と日本の中学生がやり合うわけだ。中学生の代表の六割は、韓国系の選手であったと記憶する。だから、芋と麦飯の日本側の純日本選手は、残りの四割ぐらいであった。試合前にヘルス・メーターにのって計量するわけであるが、減量せずともパスするほどの失調ぶりであるから、その必要もないも同然だ。

私の相手は米軍将校の子息であった。金髪の、ヒョロツとモヤシのような足長の少年に、父親はマウスピースをかましながら、私の方を指し、死刑の宣告でも下すようにいった。

「ナックット、ナックット」。

K・Oしろという合図であろう。私は、もうその言葉だけで、戦意さえも失ってしまった。

勝負は第一ラウンドで決った。

私がK・Oされたのである。

無慙であった。

冷たいマツトの上に私は沈んだ。第一ラウンドの一分三十秒ぐらいではないだろうか。口の中に、変に腫いものがたちこめ、耳鳴りと、胃痛に伴う嘔吐感が、今思い出しても嫌な感じで溢れるようにひろがってくる。レフリーの声の途中から私の意識はめざめたが、もう立ち上る気力さえも失っていた。その、ほんの数秒の間に、私の意識の中を過ぎ去ったのは、不思議なことに、実に平和な、緑の中を走る列車の窓際に座っていた私だった。窓の外を、流れるように走る景色は、緑と、太陽の煌きであったように記憶する。それは大阪から神戸に向っての車中で、焼け残った芦屋付近

の住宅街や六甲の山脈をみた記憶が甦ったものなのか、全然別の潜在意識的なものが、脳裏をかすめたものか、今もってわからない。

去年の春先に、その思い出の新聞会館で文化講演会をするようにといわれて赴いた。舞台上に立った私は、この敗北を六百人余の聴衆の皆さんに話しかけようと思ったが、どうしてもいえなかった。恥といったものでなく、私の神戸の印象がこんないやなこと一番強烈に残っているのを話すことは出来なかつたからである。そして、あの時、私をK・Oしたあの金髪の少年は今、何処でなにをしているのだろうかと考える。年令にして、私と同輩の三十二、三であろう。とすれば、朝鮮戦場にいったかも知れないし、また、ベトナムにいるかも知れない。或いは、緑の郊外、ニュージャージーの片田舎で、妻と子供二・三人の平和な家庭を築いて、子供の一人に少年時代のK・Oの自慢話を聞かせてやっているかも知れないのだ。そう考えてくると、なにかしら、彼に、なつかしさが湧いてくる。

そうして、こういった思い出をはぐくんでくれるのは、矢張り、神戸であるからこそといえる。大阪、京都に、私は、こういった記憶もなく、また、思い出もない。


最後に、いつも神戸へと誘ってくれた友、作曲家の斎藤超君の一周忌がやってくるのがまた淋しい感じがする。

ああ、神戸では、一人淋しく、グラスを傾けたい。

△放送作家▽

夏のモードをかざる  
WAIKIKI GLASS



 **神戸眼鏡院**

元町3丁目 TEL <33> 3112 代  
さんちか店 TEL <39> 1874~5

お中元に  
神戸の味



★市内無料配達地方送り承ります

神戸三宮トアロード  
本店(33)1番2番3番  
南店(33)1616番





**マキシン  
美容室  
神戸店**

初夏から夏にかけて  
の美しいヘアー・モード  
はゆきとどいたサービス  
シックなムードのマキシン  
美容室へおこし下さい。

*Maxine Beauty Shop*

神戸・三宮神社前三上ビル3階 電 ☎ 4917  
西寺尾店 (文化センター内)・横浜元町店 ☎ 0312  
軽井沢店 2771・博多大丸美容室・香港大丸美容室

nomiyama さんごとカメオ専門店

**ノミヤマ**

神戸国際会館アーケード TEL (22)8161 (内線) 333  
本社工場  
神戸市葺合区上筒井通1ノ20 TEL (22) 2070





△田中社長▽

□神戸っ子対談□

# 明石架橋に力を結集させよう

田中寛次 △神戸新聞社長▽ 南部圭三 △光印刷KK社長▽

★目をみはる韓国の建国の意欲

南部 韓国にいつてらっしゃったそうで、どうもおつかれさまでした。韓国の経済状況はどうでしょうか。

田中 ウルサン(蔚山)に経済五カ年計画によって石油コンビナートのすばらしいのができています。そのウルサンの港というのが二万トンクラスの船まで入れるんです。将来は更に水深を深めて大型船の入港を計画しているようです。

そこには、今年中に第一期五カ年計画が達成し終わったあと、来年から第二期五カ年計画がはじまり五、六月頃にまず二つの肥料工場ができ上り、その隣りに製鉄所ができその他の重工業をみな持って来る予定なんです。

非常にウルサンを重要視していますね。十年後には相当なものになるといってましたよ。向こうは労働力が安いですから既に綿紡ではもう日本は負けてますよ。

南部 労働力の問題はどうですか？

**田中** プサン（釜山）という所は、戦前は人口二十四万の都市でしたが今や百四十万ですよ。昔は、鉄道で満州から入って来ると駅を降りたらすぐ波止場でしたが今は道路と住宅ですよ。ソウルでもそうでしたが、今道路と住宅の建設に国を挙げて努力している姿が窺われました。弱電機の工場を見学しましたが、相当大規模なもので東南アジアへ大量の輸出をしていると言っていました。ところが、プサンで百四十万の人口の中に三十五万の失業者がいるんだね。それで、日傭の日給がなんと五十ウォンというんです。（一ウォンは約一元三十銭）

一般の初任給が三千ウォンですからねえ。大学出が半年ぐらいたつと五千ウォンになる。しかし、これは時間の問題でいつまでもそうはいかないでしょう。

**南部** 生活状況はどうなんですか？

**田中** まず、住の問題はこれからという所ですねえ。ソウルの郊外あたりでも、日本の公団住宅のようなものがポツポツ建っていますが二DKぐらいのもののようにです。家賃は土地が安いので日本よりは安いようです。衣の問題は、ある程度改正されているようですが問題は食ですね。一流のホテルで食事をしようと思って注文するとポタージュが六十四ウォンでビフテキが二百四十ウォンですよ。五百ウォンあれば十分ですがうまくないですよ。しかし、ソウルでは実にうまい酒を飲みました。釜山のホテルではトククリがないのかペブシコーラの空ビンでカンをして持ってこられてねえ。（爆笑）食生活はまだまだですね。それに、今肥料工場の突貫工事をやるうとしていいるのは、少なくとも来年度は50%は自給しようというのが目的ですわ。しかし、経済の自立ということまでいくには、相当かかりますよ。

**南部** しかし、戦後、我々日本の場合でもこれだけになるとは思ってもみなかったですし、韓国でも同じことができるかわかりませんね。（笑）

★山陽新幹線の決定まで

**南部** ところで、話題をかえまして、山陽新幹線の問題

ですが、兵庫県は新神戸駅、西明石、相生と三つの駅を持つことになるわけですね。新幹線で一つの府県が二つ以上の駅を持つというのはありませんね。

**田中** つまり、あれはこういうことなんです。今度の新幹線は岡山までですが最終目標は博多ですわね。

そうすると博多・東京間を六時間とすると、どうしても夜行列車を通すことになる。ところが、昼間はたくさん列車が走るんだけど夜はあまり走らない。そこで昼間につかう車輛をあっちこっちに置いとかなければならないが無駄にサイドラインをつくったんじや経費がかかるというんで、それでは昼間も駅として利用できる場所に配置しようというので経済的にも良いことだし、西明石と相生を置いたというわけですわ。それでも相生は米原ぐらいで西明石は小田原ぐらいの乗降客の動きはあると見てるんですよ。神戸はどうみてるかというところ、京都と同じですね。新神戸駅ができたら、四国の人は全部新神戸駅を利用する。新神戸駅と中突堤をモノレールでつなげば良いですからね。そこで僕は新幹線は夢のかけ橋と結びつかないとだめだということなんです。

**南部** しかし西明石でもあんがい多いんですね。

**田中** これは、神戸のベッドタウンですからね。それに加えて重工業地帯としての播磨がありますから相当国鉄では高く評価してらんですよ。相生も湾を中心とする造船その他工業がありますからね。

**南部** 鉄道もいろいろの要素を照らし合わせて決定しないといかんで大変ですね。

**田中** 僕は国鉄の関西支社の評議員をやってるんです。

**南部** じゃあ、おもしろいわけですね。（笑）

**田中** 今度の工事でも大阪、岡山間の工費は千七百億ですか、それを何年間で回収するかという問題もありますしね。

**南部** 採算面を考えていくとやっぱり神戸とか西明石ということになってくるんでしょうね。

**田中** 三田市を通るといふ案がありましたけど経済性から

表六甲の案にきまったわけでしょうね。地形から自然の傾向として、六甲山に穴を開けるということになります。所がトンネルの中に駅をつくとすると相当スピードがある。外へ出ることも考えないとだめですよ。(笑)そういうことで布引に顔を出すということになったんでしょう。

**南部** 戦前に弾丸列車が走るという話がありましたねえ。裏山へ遊びに行くとか地質調査をやって、あそこに弾丸列車が走るんやとって話したのを憶えてますがねえ。(笑)

**田中** 神戸新聞も空襲でやられてねえ。六甲山に穴を掘ってその中へ輪転機を移そうなんて、本気で考えたことがありますよ。(笑)終戦になってしまったけど(笑)

★**明石架橋に県民の力を結集しよう。**  
**南部** 山陽新幹線の問題も落着いてくると、いよいよ明石架橋の問題ですねえ。鉄道併用橋という話も出ていますが、社長さんはどうお考えですか？



**田中** 僕は技術者じゃないから観念的な意見しかいえないけど、どうしても鉄道をかけたければ国鉄は鉄道併用橋可能なりといってるんだから国鉄でも政府でもやれば良いんですよ。ただしねえ、岡山ルートや、尾道ルートが盛んに名乗りをあげているが、何はさておき、明石架橋を第一にするという決定をつかまなければならぬ。

水を征服して国土の開発をしようとする時には何よりもその経済性の比重を勘案して決定すべきで、かりそめにも政治的に解決すべきではない。そういう点では、今も議論の時じゃないですよ。僕の友人に広島や、岡山の新聞社の社長がいるんですが、「田中さん、あんたのところに橋はあげませんよ」というんですね。それを他の人が聞いてて橋というものは人が利用してはじめて意義があるんで、なにも釣りに行く人が利用しても何もならんといってくさしてたですねえ。これは誰が見ても、他のルートに比べて明石架橋が第一に優先すべきだという世論ですよ。何億もの金を使って橋を作った以上は経済

の発展とか資源の開発にどれだけプラスになるかを考えないとだめでね。これだけいえば問題はきわめて簡単です。僕はそういう点で県民が一本になって、もっと強く政府に働きかけないとだめですね。

**南部** 僕は考えますのに、なんか神戸市が当面の市民生活をほって橋のことばかりやっとなるじゃないかといわれるのがこわさね。(笑) 神戸市が積極的にやってないんじゃないかと思うんですけどどうでしょう。それで盛りあがりがないんじゃないですかねえ。

**田中** そうじゃないんですけども勇気をもってやらねばいけないと思うね。

**南部** やっぱいろいろことは、信念のほどを堂々といわないとだめですねえ。それで一つの盛りあがりが出て来るんじゃないでしょうかねえ。

**田中** あなたのいわれるとおりですよ。佐藤さんが総理になった時に私も招待されたのですが、その時万国博はまだはっきり決定してなかったのですが、おそらく関西に決まるだろうと、それには必ずモニユメントが必要で、明石架橋こそ万国博のモニユメントだと佐藤総理の隣りに座ったもんだから話してたんですがね。

うちの新聞もこの間、モニユメントとしてやるべきだといつて特集でやっただすがね。ひとつ盛り上げないといかんですわ。僕も責任を感じますわ。(笑)

あなた方も、青年会議所で全国的に活躍してるんだから、若い人の声を淡路に結集して下さいよ。

**南部** 今月の七日に、近隣の青年会議所の人達に呼びかけて、青年会議所としての明石架橋に対する態度を決めたいと思っています。それに今年の十一月に神戸で開かれる青年会議所の全国大会の分科会でも原口市長にも出ていただいて、その問題をとりあげる予定ですけどね。おそらくその時には橋の問題も決まるんじゃないかと思

うんですけどねえ。(笑)

**田中** 勿論それ迄に決めなければいけません。ただ政治的に甲乙つけがたいということになると皆そっぽを向い

てしまうというおそれがありますからねえ。まあ、橋は県民が結集して、早くやらなければいけません。

#### ★実現させたい兵庫県下のテレビ局

**南部** 姫路にテレビ局開設という話はどうなってるんですか？

**田中** 初めてテレビの電波を全国に割りあてる時に、大阪を中心に考えて生駒の山上に送信塔を立てると、相当の広い範囲に送信出来るというので、これをきめたわけだが、それでは姫路には送信出来ないというので、当時は一本の電波が姫路用にかくしてあったわけだ。ところが、これを大阪に持って行って民間テレビを一局増やしたため、最早や今の電波(VHF帯)ではどうすることも出来なくなった。ところが新しくUHF帯の開発が進んで、これを利用することによって更に多くの電波が普及可能になったわけですよ。

雄県兵庫だなんていばついても独立したテレビの電波を持たないで、県民の文化の向上も経済の発展も待てることは出来ません。何時までも押し着せのマスコミに甘んじていられるかというのが県民のいつわらない気持ちだと思うのです。

もともとテレビ割り当ての初めから兵庫県に独立した民間テレビ局の期待が大きかっただけに、どうしても一日も早くこの実現を見なければいけないというのが我々の悲願ですが、既設のテレビ局はそれぞれ中継によって難視聴を解消しようと採算上から猛運動を始めていますが、それではいつ迄たつても県民のためのテレビ電波ではなく、かりに地方選挙の時でも岡山や松山の候補者の顔を見せられてたまるかということです。兵庫県民の文化と社会と、県民の福祉の向上のために一日も早く独自の電波を獲得せねばならぬというのが私の悲願であり、執念です。電波の獲得戦はみにくいまでも物凄いです。県民、市民の方々のご鞭撻を願ってやまない所

## 経済ポケット

### ジャーナル



美しい姿を見せたマヤ大橋

みせてほしい  
海運神戸の土性骨

往年の神戸経済の主流といわれた海運界も第二期集約化の時代を迎え多難をきわめていく。こんどは中小オーナー(貸し船業者)の合理化が中心だが、これに伴ってこれまで神戸に君臨してきた「ばい船主」たちが次々に姿を消すのではなかいかと淋しがられている。神戸オーナーズ協会長の玉井操氏(玉井商船社長)は「時代の流れとは云え淋しく残念だ」と語り、また全国内航輸送海運組合長の永井庄治郎氏(扶桑海運社長)は「現状の過当競争打破と企業合理化のためだ。思い切った措置も仕方ない」と静かに話している。しかし神戸商船社長加藤千松氏のように「こんどは生存者叙勲で勲四等を出したが、これは私の再出発の印。現体制でもまだまだ、われわれオーナーはやっているし頑張る。集約があっても神戸海運の土性骨をみせろ」と元氣な声もある。

### 神戸J.C.も

#### 明石ルートの尽力

神戸青年会議所(J.C.)

鳥越浩理事長)はついに懸案の明石架橋建設促進特別委員会(竹田剛前委員長)を設立、県、市、商議所と力を合わせ架橋誘致運動に乗り出すことを決定した。これは金井知事、原口市長、対抗馬岡山のJ.C.が、さきに特別委員会を設け運動を始めたから引つ込んでおくわけにはいかなかったというのが真相。理事の牛尾ウソオ工業社長らは「一万一、岡山一香川ルートになった場合、地元経済団体のJ.C.が力を貸さなかったといわれても困るし、地元のためにも役立つと思った」と話しており、今後は全国のJ.C.にも協力を求めているとそうだ。大いに期待したいところだが、仲のよかつた岡山J.C.、神戸J.C.が同問題を契機に仲たがひせねばよいがとの声も出ている。

#### 新幹線表六甲ルートを

待ちに待った山陽新幹線のルートが表六甲ルートと決定した。同ルートは四月初め日経新聞の「特報」として報道されてはいたが、

暗い話題続きの経済界だっただけにやはり喜びは大きいようだ。

神戸では浅田長平神戸商議所会頭、岡崎忠神戸銀行頭取、砂野仁川重社長ら財界人が表六甲ルート促進期成同盟を結成していた関係から、神戸財界の「面子論」すら飛び出していた。各長老たちも胸をなで下したようだ。一方、神戸市では新神戸駅が布引地帯と決まったことから今後の都市計画にも有利との見方を強め、原口市長は新駅と神戸港間にモノレールを敷設するとの構想を発表、「アイデア市長」の敏腕を振るうと意欲をみせている。大神戸のためにも結構なお話である。

#### マヤ大橋完成

摩耶ふ頭と新港ふ頭を結ぶ神戸港の摩耶大橋がこのほど完成、神戸の新名所として脚光を浴びている。神戸市が工費七億八千万円をかけてつくったもので

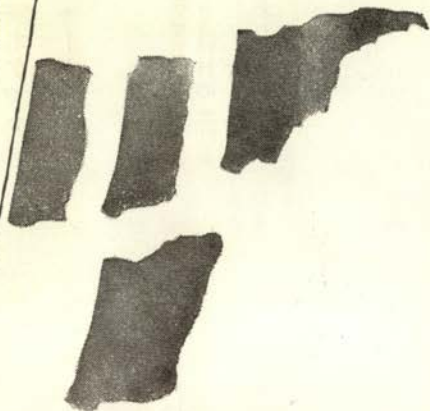
全長五百び、幅十回のシムルバグレーのスマートな橋。これまで同じ神戸港内でありながら摩耶から新港突堤まで五、びも遠回りしていただけに海運、貿易業者も経済効果が大きいと大喜び。利用価値も満足とか。これを聞いた市港務局長の四方田さんも「巨大な港に巨大な大橋。利用価値だけでなく、ミナトの観光および新設摩耶ふ頭の開発にもプラスする」と大きく胸を張っているが……。(人と自転車は五〇円要る。乗車とバスは五〇円要る。)

#### ※KOBEオフィレディ※



萩原 妙子(19)  
富士銀行KK勤務

神港高校を卒業してO.L.になって1年。目下タイプを勉強中だそう。まだ若いしなんでも吸収し、どんどん自分のものにして行きたいと意欲的なことをいってくれた。清潔な可愛い笑顔を見せる神戸っ子である。趣味は、音楽を聞くことと山登り。



涼しくシャれる  
夏のシャツを……



スイス製フィスバ  
国産高級生地にて  
別御仕立承り

**元町バザー**

神戸×元町1丁目  
TEL (33) 1401・7031



**O-SHIBATA**



**柴田音吉洋服店**

神戸・元町通4丁目 神戸 34-0693  
大阪・高麗橋2丁目 大阪 231-2106

— 神戸ドキュメント — 《6》

# 十四寿しに賭ける

田中 忠雄 / カメラ・浜岡 収

「毎度ありイ!!」

「いらっしやい。どうぞ。何からいきましよう?」

正午かっきり。国鉄元町駅の真下、神戸市生田区北長狭通四高架下にある「ごん兵衛寿し」本店は威勢に満ちた掛け声とともに店開きする。

焼き鳥屋、中華、台湾料理、活魚料理、食堂、すし屋——。高架下に軒を連ねる食堂街の一角、もっと正確にいえば元町駅東口から高架沿い西へ四番目の筋、南か

ら二軒目に「ごん兵衛寿し」本店がある。

江戸風にぎり一本。一ダースの客が座ればたちまちばいになるちっぽけな店である。だが「ごん兵衛寿し」といえば知らない人はいない。

五月晴れのある日曜日、本店を訪れた。順番を待つ客が店外にはみ出し、通路は家族連れ、若い女性のグループで埋まっていた。ちょうど昼どき、おやじさん夫妻、後藤寿(四八)裕子(三八)さんをはじめ若い衆二人にとつては非常時に当たるとは。

★ 値上りムードのなかで頭張る十四寿し  
左手にネタ、右手にシャリ(飯)をつかんでパツとにぎり、返す手でカウンターに並べる見事な一発にぎり。あざやかな手つきをくり返しながら、「手のぬくもりを寿しに残してはまづくなる。間髪を入れずににぎるのが一発にぎりのよさなんだ」

おやじさんのご自慢である。カウンターに平行して、マグロ、イカ、エビ、アナゴ、ハマチ、トリガイ、シャコ、アワビ



タコなど十数種のネタがガラスのケースの中にうず高く積まれている。

「白味に、タコ」

「エビ」

バツつく客の注文は鉄砲玉のようににぎり続けるおやじさんらに集注する。そして店外には生つばを飲み込みながら順番を待つ客が一ぱい。店内の一番目につきやすい場所二カ所に「いずれも一個十円」という張り紙が目をつむいている。この張り紙がぶら下ったのは戦後間もない昭和二十三年。それから十八年、おやじさんは「十円ずし」をにぎり続けた。

「だてや酔狂で十円ずし」を続けているのではあらへんで。こんなに物価、人件費が値上がりする中でちょっとやそつでもちこたえられるはずがない。いつの間にかやらかしの頭の中に「十円哲学」ちゅうもんが生れてし



★だてや酔狂で十円ずしをにぎってるのやないと威勢の良いごん兵衛し

もた」

十円ずしを語るおやじさんの一言、一言には十八年の歳月が刻み込まれている。

× × ×

「十円ずし」は昭和二十三年十一月、新聞地本通りのすぐそば、かつての色町「福原」の軒下、使い古された屋台の上でうぶ声をあげた。

戦後の混乱期が最高に達した二十一年、食料油をつくる会社の外地特派員だった後藤さんが中国大陸から引き揚げて来た。リネックサック一つ。二十九歳。神戸に住みつき、中央郵便局に勤めたものの、年を食い過ぎていくとの理由で当時は陰の仕事だった簡易保険係り。自分の持ち数だけの集金をしてしまえば後はお役目御免。

「残った時間を何とかして活用、生活を楽にしたかった。栄耀栄華をきわめた外地生活で派手な生活だけが身につけては昼からでも酒を飲んでのんびりしたい。何かええ智慧はないかいな、と每晚考えた」

仕事しながら酒を飲み、金がもうかる商売。おやじさんの頭にすし屋が浮かんだ。

思い立ったらすぐ実行に移したい性分。郵便局がひけてから連日連夜、あっちのすし屋、こっちのすし屋の店先に立たつ。局勤めの自分、すし屋奉公は出来っこない見よう見まねでにぎり方を憶えようと「門前の小僧」になった。

そして三カ月。二十三年十一月末、四千元と引き換えに古ぼけた屋台を手に入れた。午前八時——午後五時は郵便局員、午後五時——午前二時は屋台のすし屋という変則生活が始まった。毎日の睡眠時間はたった四時間。夢見ずにきょうを暮らそう——と後藤さん夫妻はがんばり抜いた。

二十七年暮れ、聚楽館に近い新聞地本通りの裏通りにバラックの店を構えた。

「自分の店が出来た喜びは、どんな喜びにも代えがたいと当時を述懐するが、屋台店当時の無理がたたって裕子





さんは、ごく最近まで神経痛に悩まされた。そのころになるとすし屋としても一人前。

「ごん兵衛の『十円寿し』を食べないと眠れない」というお客もついた。

「すし屋には理くつをこね回る人が多い。だが、すしは舌の上のつたときが勝負。ええもんはええし、悪いものは悪いんや。値段と味が一致したとき、客は自然にこちそうさん、ありがとうと心の中でいうてくれるやろ。べん来たら続いて足を運んでくれる」

そんなすしをにぎりたいたいと念じつつ、努力し続けた。

一軒を構えると同時に郵便局を止め、すし一本に打ち込むことに固く決めた。そのころの常連に画家がいた。

「『ごん兵衛タネまきヤカラスがほじくる』のたとえでカラスをのれんにしたら……」と持ちかけてくれた。屋号の「ごん兵衛」は、小柄ながらがん固なおやじさんの性格を見ぬいて幼いころからついたあだなからとつたもの。カラスは昔から不吉な鳥といわれるが、三本指のカラスは吉のしるし。画家のすすめでグリーン地に黒で染め抜いた三本指のカラスの小的れんが出事上がった。

三十年五月。現在の本店へ移って来た。元町に移ってから酒を出すのをきっぱり止めた。

「すしは酒と一しょに食べてはじめておいしいものだ」「元町へ出て来たとなんに思いがりやがって……」

酒廃止は、古いお客さんからもすし分反撃をくった。しかしおやじさん夫妻の「すしをにぎり、すしを売って喜んでもらうのだ。すしは酒のつまみではないのだ」との石のような決心は変わらなかった。

× ×

終戦当時のどん底から生まれた十円寿し『ごん兵衛寿し』は順調に歩み続けた。

「正直いっていままで何度値上げしようと思ったかしれない。そのたびに屋台当時の苦しさを思い浮かべて歯を食いしばった」

十八年、十円寿しをにぎり続けたおやじさんの心に『十円哲学』がはぐくまれ、いつの間にかどっしり根を下ろした。

「利は元にある」。おやじさんは強調する。「いいネタを現金仕入れで安く仕入れ、味をよくして回転を早くする

★一発にぎりの十円寿しをにぎる後藤さん

さんや。いい品物を薄利多売するのが十円寿しを維持し得た秘訣。諸物価値上がりを理由に値上げしようと思うたびに客あつての商売。お客さんはどんな顔をされるやろ。お客さんには右のほったをなぐられても左のほったを差し出すのが商売人。その商売人がお客がいやがり、一番きらい値上げをしてよいやろか」と質が変わらず

安いネタを求めて魚屋を歩き回り「安く、うまく、腹の中で“ありがたい、ごちそうさん”とお客がいつてくれるすしになってくれや」と祈りながらネタをおろす包丁を振った。

諸物価値上りを理由に、すぐ運賃値上げをしたが、どこかの国の鉄道屋さんに聞かせてやりたい話。

三十九年、元町駅の改造工事に伴って店舗改装の話が出、家主から三倍近い家賃値上げ案が持ち出されたときおやじさんは周囲の店に率先して家主にかけ合った。

「商売人の結束なんてなかなか出事っこないが、ここで負けたら十円寿しもしまいやと思たんや。三倍近い家賃値上げでは二十円ずしにせなあかん。ここが勝負どころや思たんや」

値上げ案を撤回するまで動かへん——と商売を続け、工事中の遅れを気にした国鉄が中にはいつて値上げ案は最少限度にとどまった。

「あのときがやっぱり共産党でもびつくりしよるやろ」と当時を思い返すたびに「おやじさんは苦笑い。」

一度でも「ごん兵衛寿し」を訪れた

人は、阪神タイガースの村山投手とおやじさんが握手する写真の思い出されるにちがいない。店の北側に面した壁一ぱいにタイガースの選手と交換するおやじさんの写真が貼ってある。大のタイガースファンなのである。

こんなことがあった。メートルのあがったお客さんがさんさん阪神の悪口を並べ立てた。黙ってこらえていたおやじさんも悪口が読売ジャイアンツ礼さんに変わりとネタおろしに使っていた包丁を突きつけるようにして「お客さん、代はいりません。とっととお帰り下さい」と最後通告した。酔客はびつくりぎょうてん。腰を抜かさんばかりにほうほうのていで逃げ帰った。私の知る限りタイガースファンの双壁はごん兵衛のおやじさんと一



「十円寿し」の元町のごん兵衛さんでしょ

谷兵庫教育長。しかもこの二人、非常にウマが合い、十年の知己である。

× ×

十円寿しの基礎が固まった「ごん兵衛寿し」に去年三月、降ってわいたような吉報が舞い込んだ。

大阪難波の高島屋営業部から電話がかかり「地下の売り場に店を出してほしい。ついてはそのことについて相談したい」という。

「神戸には、ぎょうさんごん兵衛いう店がしまっせ。店違いでっしゃる」

「十円寿しの元町のごん兵衛さんでしょ。間違いないやせん」

う。間違いないやせん」

こんなやりとりの末、翌日営業次長がやって来た。

「食いだおれの大阪へ、すし引っ下げて神戸から乗り込むのは冒險」と思いながらも地下食料品売り場のど真ん中に「神戸元町のごん兵衛寿し」ののれんをあげた。初日の売り上げ十万円。大へんな人気でふたあけた。

去年十月、大阪北区中之島にサン・ストアー支店、今年四月、阪和線向ヶ丘団地に

丸高ストアー支店、南海沿線に助松団地支店をあいづいで開店、元町の十円寿しが和歌山まで足を伸ばした。店は有限会社に変わり、おやじさんは社長さんになった。本店、支店でにぎるすしは一日三万八千個前後。

「この間従業員の慰安旅行に行こうと思つたらバス一台で間に合わなんだ」とおやじさん、いや社長さんは笑いながら語った。

がんばれ!! 十円寿し、である。

〈神戸新聞記者〉



呉邦産物

みよこや

電話神戸③三三八八〇九番  
 トアロイド店  
 電話神戸③六五七七番  
 大阪店阪神百貨店三階  
 電話大阪③九五八四番  
 姫路店やまとやしき百貨店三階  
 電話姫路②一一二二番  
 衣裳部 三宮町三丁目柳筋  
 電話③五一六五番

若さと  
 スタミナを  
 プラス

扇雀オコシ



鴈治郎飴本舗

本社  
 神戸湊川神社電停前  
 電話④1242

営業所工場  
 生田区仲町通4丁目  
 電話④2663

\*\*\* 神戸市民劇場 \*\*\*

# オンデイナーヌ公演の舞台うらから

## 北大路欣也



## 加賀まりこ

日生劇場と劇団四季の来神も初めてなら、主演の北大路欣也も加賀まり子も神戸っ子には初めてのお目見得。五月二十三、四日の神戸市民劇場主催のジロドゥ作「オンデイナーヌ」は若い世代の満員の観客を集めて上演された。神戸初登場の主演の二人を楽屋うらへ訪ねてみた。

— 地方公演へ出られていかがですか？

**北大路** 「名古屋二週間、大阪、神戸、京都二日間づつという短かい滞在なんです。観客の方がすごく素直でナイーブに観て下さるんで嬉しいですね。

— ということは「観たい！」という人しか来ていないんじゃないだろうかと思うんですよ。初めての経験ですが、いい機会さえあれば地方公演にも出たいですね。これからも機会がほしいというのが実感です」

— 劇団四季の公演はセリフとセリフのハイモニーがきれいだと思いませんか？

**北大路** 「それは浅利慶太さんの演出が、セリフをまますかせるというのが基本ですね。ほくも訓練させられましたが、大きい声、小さな声、強い声、弱い声、色々使おう難しさと面白さは非常にあります。セリフをどう解釈してそれにあてはめてゆくかということですね。

— 白いタイト姿のよく似合う騎士ハンス役の北大路欣也君を訪問した後は水の精オンデイナーヌ役の加賀まりこさんの楽屋へ。神戸公演では六時から九時三十分と三時間半にわたる芝居の上演の後で水の精もいささか疲れ気味。白と黒のしやれたチエックのスーツに、長い黒い髪が魅力的だ。それによく通るねばりつけのある声。

— 神戸は二度目とかがいりましたが？

**加賀** 「ええ、前に女性週間誌の仕事で一度来ました。

— 山あり、海ありでとっても良い町ネ。仕事で忙しくてゆっくり見てまわれないのが残念。でも元町、センター街に買物に行って来ました」

— 加賀さんに似た女性が神戸は多いみたい。

**加賀** 「それはよくわからないけれど、町を歩いてみて、チャームिंगな女性が多いわネ。それに男性もハンサムな人が多い」(笑)

— 正式に劇団四季の団員になられて、本格的に舞台の方をやられるようですか？

**加賀** 「映画っていうのは撮ってしまえば、後はお客まかせでしょう。でも芝居は、演っていて観客の反応がじかに肌に伝わってくる、そういう楽しさと張りがあります

普だん自分が言葉にしてシヤベッているときは、とても自然で、ヴァラエティがあつて良いんだけど、いざセリフにして口にするとな自然になつたりしますから。自然のままの形でセリフになればもつといいんだけど……」

—— オンデイナーをまた東京で再演されますね

**北大路** 「今年ぼくは七月に石原慎太郎さんの創作劇。八月にオンデイナー再演。十二月に三島由紀夫さんの書きおろしと、舞台が中心になるんです。

ジロドウのような偉大な作家の戯曲に出演出来て、美しいドラマを演じる喜びと、それを皆さんにいかにしたら満足してもらえるかという自分の可能性を確かめてゆく気持は役者めよう利につきますね。舞台は肉体が生に出てくるので、コンスタンスに集中してもってゆかないといけないし、それに舞台を作りあげてゆく楽しみというのは苦しいけれど楽しいですね。映画だと撮影をしているときに舞台上のようなものですから、生の感じはありませんよ」

—— これからどんな役柄をやりたいですか？

**北大路** 「現在のキャラクターにあうもの。年をとれば冒険も必要だけれど三十才迄はまだ子供でしょ。今はテレビ映画、舞台色んな場で可能性をためたいですね。テレビは「悲しき玩具」啄木を演ることになっていきます。早稲田は六年生。大学も卒業したいですね。(笑)



すね」

—— 浅利慶太氏をどうお考えですか？

**加賀** 「お芝居の仕事一本に打ちこまれていらっしやる。立派な方ね」

—— 地方公演で、特に神戸だなと感じられたことは？

**加賀** 「やはり違いますね反応が。例えばセリフの中でトリスタンは？というところなど、神戸の人は敏感にそれを受けとめて、反応がかえつてくるんです。客席が湧くので、やっていてスゴク張りがありました。全体に神戸の人は芝居に対して大人でいらっしやる」

—— オンデイナーのセリフで一番好きなセリフをどうぞ

**加賀** 「スーんな好きだけど……。エーと。そうね。忘れちゃあいけないわね(笑)。「わけがあると思つていたは、娘でいることに……」

—— 一緒に写真をとつてほしいという若い女性ファン。加賀まりこと並んで感激のあまり泣き出す仕末。「まりこちゃん、夢を毎日毎日見ているの——嬉しいワア」

また、東京と神戸とどちらも観に来た人は「地方へ来るとやはりチョット落ちるナア」と歎しい。それはともかく東京迄観にゆけない人たちのために、なるべく質を落さないで、頑張つて地方公演を打つてほしいものである

